

令和8年度 豊田工業大学入学式 祝辞

皆さんおはようございます。

トヨタ学園、豊田工業大学、理事長の増田です。皆さんのご入学をお祝いして祝辞を述べさせていただきます。

学部へ入学、編入された皆さん、大学院の博士課程、修士課程へ進学、入学された皆さん、おめでとうございます、また、ご列席のご家族の皆様をはじめ、関係の方々にも、心よりお祝い申し上げます。

本日、入学、進学された皆さんには、これまで支えてこられた方々への感謝の気持ちを、今後も大切にしていきたいと思えます。

豊田工業大学は、国産の自動車事業を興した豊田喜一郎氏の「産業を支える技術者を育てたい」という強い志から構想され、自動車事業の40周年記念事業として1981年に開学しました。本日の式典は、その志を受け継いだ、豊田喜一郎氏の名前を冠した記念ホールでの開催となっています。

また、みなさんに来ていただいているキャンパスは、6年前の2020年に、トヨタ自動車はじめ、多くの企業からのご寄付により完成したものです。新装されたキャンパスでは、より良い教育・研究ができるように各所に工夫を凝らしてあります。学生一人あたりで見ると、日本屈指の広さがあり、余裕のある空間を学生の皆さんは利用することができます。

さて、本日ここに学部入学された皆さんは、たいへん良い大学を選択されたと思えます。これから多くの出会いと成長の機会を、他に比類のない豊田工業大学で得ることとなるのは幸運であると思えます。自信を持って、新たなステージをスタートさせていただきたく思えます。

大学での学びは、高校までの学びとは大きく異なります。大学での学びの“本質的な目的”は、「新しい“価値を生み出す”ための素養を身に着ける」ということです。“すでにある知識や解法“を身に着ける”ことは手段であり、目的ではありません。

本学は、“研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし”という豊田佐吉の遺訓を建学の理念としていますが、具体的には、次に述べるような学生の育成により、社会に貢献することを目的としています。

それは、「“豊かな人間性”」と「“創造的な知性”」を備えた「“実践的技術者”」を育成し、合わせて深く専門の学術を研究し、もって学術・文化及び社会の発展に寄与する、ということです。ここに、みなさんが成長する方向性を示すキーワードが3つ含まれています。それは、一つ目は、“豊かな人間性”。二つ目は、“創造的な知性”。三つ目は、“実践的であれ”ということです。

本学で学び続けていくと、気がつけば自分の中に、今述べた3つの資質が、少しずつ身についていきます。そして、本学がスローガンとしている「進むなら、足跡のない方へ」のように一歩、踏み出してみようという、“新しい価値を自らの力で生み出したい”という気持ちが、自然と湧き上がってくる—そんな自分に会える日が、必ずやってきます。本学には、他大学では実現が難しい育成環境が、幅広く導入されています。そのベースとして学生が少人数であるということが、まず、挙げられます。学部から博士課程まで、全学で

約 500 名余りの学生数です。学生一人あたりの教員数で見ると、国内大学としてトップレベルの多くの教員が、みなさんの大学生活をサポートします。いわゆる「少数精鋭」とは、精鋭が集まるという意味ではなく、少人数の環境の中で精鋭へと成長していくことができる、ということに他なりません。

1 年生に入学された皆さんのキャンパスライフは、「初年次シェアハウス型入寮制」から始まります。初年次だからこそ、同じ工学を志す友人と過ごし、人生でかけがえのない経験をして豊かな人間性を育てていただきたいと思います。

また、学びについては、体験を重視した科目教育や、教養教育・体育などのカリキュラムがあり、また、研究室配属になってからは、修士、博士学生と共に、自らも試行錯誤しながら時代を切り開く研究に挑戦する環境があります。

ここで、「大学での学び」について、私が大学 1、2 年生の時に多くの単位を落としたという体験談をお話します。

専門の基礎となる“数学”については、それぞれが難しく、みなさんの中にも、挫折を経験する人が出てくると思います。

また、“教養科目”については、「工学を学ぶために入学したのに何でこんな講義を聞かなきゃいけないの？」という気持ちになる人が少なからずいるだろうと思います。

実は、私は大学時代、線形代数の単位をほとんど落としました。今振り返ると、その原因が「問題を解くこと」とらわれ、“概念を理解する”という「大学での学び」がわかっていなかったからだ、と思っています。

現在、時代を大きく変えつつある生成 AI は、その背後で専用のコンピュータチップを使って巨大な次元のベクトル演算、膨大な行列演算をすることで、“知性といえるような性能”を実現しています。これに限らず、量子力学などにおいても線形代数は現在の世界を理解するための基本なので、この数理が描き出す“概念”が多少なりとも理解できるように勉強して、私の二の舞にならないでほしいと思います。

また、教養科目は、何かのために学ぶものではなく、自分の中に興味を広げるための時間です。専門よりも、この学びが皆さんの将来にとって大きな力になります。これは、私自身が社会人となり、その後、組織リーダーとして活動した経験から申し上げることです。

学部新入生のみなさんには、「大学での学び」に早く慣れて、新たな大学生活を有意義に送ってくださることを期待しています。

大学院の修士課程に入学、博士課程に進学されるみなさんに向けては、次のことを意識していただきたく思います。これは、毎年、同じ内容をお伝えしているメッセージです。

私が長く開発技術者として働いてきた経験から、「他人が考え生み出したこと」と「自分が考え生み出したこと」とをきちんと区別できる力が、非常に重要だと感じています。これは、言い換えれば「オリジナリティへの敬意」を持つ学びの姿勢とも言えるでしょう。この姿勢が、みなさんが、開発者や研究者として健全に成長するための原動力となります。また、「自分が自分であることを、相手に伝わるように表現できる力」を育むための土台にもなります。これからの研究活動は、まさにこの「オリジナリティへの敬意」を自分の内に根づかせていく時間となるはずで、ぜひ、多くのチャレンジを重ねていってください。

本日は博士課程に進学される方も参加しています。

いろいろな要素が高度化し複雑に絡み合って先が読みにくい時代になっています。このよう

な時代に、「時流に先んずることのできる」資質は、博士研究による鍛錬によってさらに大きく伸ばすことができます。このような成長の場を提供するため、優れた教員団や研究環境に加えて、皆さんが学位取得するまでの生活資金の支給も行うフルサポートの奨学制度を提供しています。また、工学博士号を授与された方々が、就職に困ることはありません。充実した博士課程があることは、本学の大きな魅力です。ぜひ博士課程をさらに輝かせる一員として活躍していただきたく思います。

最後になりますが、健康を第一にさせていただき、そのうえで、誤りや失敗を恐れず、仲間や教員と語らい、“こころ踊る大学”でのキャンパスライフを、自分なりに伸び伸びと思いきり過ごしてください。

これをもちまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

令和8年4月1日
学校法人トヨタ学園 理事長 増田 義彦